集団づくり部会

Ⅰ．研究の概要

１．研究課題

「集団と個人が相乗効果を得ながら向上していくために、子どもたちの活動でどのような工夫が考えられるか」

２．研究内容

【研究内容１】
児童会・生徒会・小中連携（小・中）
①日常の児童・生徒会活動
②集会活動の企画
③小中連携事業

【研究内容２】
学級学年経営（小）
①日常活動（班・当番・係・音楽等）
②行事に向けての学級としての取組
③集団における個人の育成
④エンカウンター
⑤Ｑ－Ｕ
⑥学年・学級での自治的活動

【研究内容３】
学級学年経営（中）
①日常活動（班・当番・係等）
②行事に向けての学級としての取組
③集団における個人の育成
④エンカウンター
⑤Ｑ－Ｕ
⑥学年・学級での自治的活動

【研究内容４】
表現・遊び・ものづくり（小・中）
①行事や集会におけるレクリエーション
②劇・音楽・踊りなどの表現活動
③集団遊び

３．研究方法

（１）交流計画

研究内容についての実践例・失敗談などを交流し、「さまざまな集団の中で、子どもたちが生き生きと意欲を持って活動するための自主的・主体的な取組には、どのような実践や工夫を取り入れるべきか」についての研修を深める。

（２）分科会構成

第１分科会　児童会・生徒会・小中連携（小・中）
＜研究キーワード＞日常の児童・生徒会活動、集会活動の企画、小中連携事業

第２分科会　学級学年経営（小）
＜研究キーワード＞日常活動、行事における学級としての取組、集団における個人の育成、エンカウンター、Q-U、学年・学級での自治的活動

第３分科会　学級学年経営（中）
＜研究キーワード＞日常活動、行事における学級としての取組、集団における個人の育成、エンカウンター、Q-U、学年・学級での自治的活動

第４分科会　表現・遊び・ものづくり（小・中）
＜研究キーワード＞行事や集会におけるレクリエーション、劇・音楽・踊りなどの表現活動、集団遊び

Ⅱ．実践研究の経過と成果

１．実践研究の経過

（１）部会役員研修会による研究経過

５月１０日　第１回部会役員研修会
　　研究計画の概要の確認

６月　３日　第２回部会役員研修会
　　今年度の課題部会研究協議会の提言内容について

７月２７日　第３回部会役員研修会（南）

８月　５日　第３回部会役員研修会（北）
　　課題部会研究協議会の運営（放送機器研修）について

９月１７日　第４回部会役員研修会
　　研究の成果・課題のまとめと次年度研究計画について

１２月１７日　第５回部会役員研修会
　　次年度の研究計画について

（２）部会役員研修会での研究成果

・コロナ禍での、適切な運営方法（全体会の持ち方や分科会の教室数・人数制限など）を検討した。
・全体会のリモート配信について検討した。また、そのための放送機器の研修を行った。
・今年度までの実績と児童生徒の現状を踏まえ、来年度以降の研究課題や内容、方向性などについて検討した。

２．課題部会研究協議会での研究成果

今年度は協議会を開催できなかったので、アンケートで票数が多かったレポートを掲載する。

☆掲載レポート①　第１分科会　新篠津村立新篠津中学校　　中村悠子　教諭

「新篠津中の生徒会活動」

〇新篠津中学校とその子どもたちについて～地域でつながる子どもたち

新篠津村内は６地区に分けられ、地区ごとのつながりも強く、同じ地区で育った子どもは学年関係なく仲がよい。縦割りはもちろん、学年対抗の学校行事、異学年交流が他校に比べて多く、学年を越えたかかわりが深い。A・B 軍に分かれての体育祭など、縦割りの活動では、３年生を中心とした上級生がリーダーシップをとり、下級生を引っ張ることが伝統的になっている。３年生のリーダーとしての成長はもちろんのこと、１・２年生の集団としての意識の高まりも図られているように思う。

〇新篠津中学校の生徒会活動の流れ

・会長などの書記局と各委員長とで構成される「執行委員会」で行事運営や毎月の活動を確認。
・前期・後期の活動目標/活動計画に基づき、月に一度の一斉委員会で各委員会が毎月の活動について検討。
・毎月の一斉委員会や、放課後・昼休みという限られた時間の中での活動準備。

集団と個人が相乗効果を得ながら向上していくための、子どもたちの活動における工夫 【各委員会の活動から】		
全校朝会	○生徒が企画・運営 ○毎集会後に反省を行い、次につなげていく ○上級生が下級生をフォローし、育てていく	ほぼ月に一度、登校後８：１０から、１０分～１５分程度の集会を企画・運営。各委員長による委員会活動の取り組み紹介や、生徒会企画行事の表彰、各学級の様子紹介、部活動の伝達表彰まで幅広く行う。司会・進行は、書記局代表委員会がつとめる。夏過ぎからは、３ 年生主体の活動から、後輩育成を意識し、少しずつ１・２年生中心の活動に移っていく。
朝のあいさつ運動	○活動のリーダーを決め、リーダー中心に活動 ○ほかの委員生徒も協力	毎朝、書記局・代表委員会の生徒、各委員会の生徒が日替わりで生徒玄関に立ち、あいさつをする。あまり大きな声の出せないコロナ禍の現在は、「目を見て挨拶」を目標に全校生徒にあいさつを返してもらっている。
生徒 Radio!	○自分達で発信していくという気持ちの育成 ○各学級と全校とのつながりも感じられる	放送委員会によるお昼の校内放送内に１コーナーをもらい、週の予定や委員会の活動を広めるための宣伝活動を実施している。生徒にアンケートを取った内容の紹介や、旅行行事前後に各学年の代表委員に出演を依頼し、旅行行事の予定や学級の様子を話してもらうなど、活動の幅を拡大中。
先生・生徒にインタビュー！（放送委員会）	○インタビュー生徒も放送を聞く側の生徒も委員会活動に興味が持てる	放送委員会の取り組み。各委員長や各学級の代表委員、担任の先生などにゲスト出演を依頼し、インタビュー内容を放送する。先生方のことを深く知ってもらうほか、委員会活動や学級の取り組みを全校に広く知ってもらうことが目的。

〇小中一貫の取組

・令和３年度より、新篠津村では小中一貫教育が本格開始。現在、小学校・児童会と中学校・生徒会における合同の取組を模索している最中。今年度は、その取組の初年度として、6 月ごろに Zoom による「小中児童会・生徒会合同会議」を実施し、各校の児童会・生徒会活動の交流を行った。今後、両校で共通の取組（あいさつ運動 など）を、時期を見て合同で実施していく考え。

☆掲載レポート②　第２分科会　千歳市立千歳小学校　　高橋幸恵　教諭

「『つながり』のある学級作りをめざして」

〇子ども同士がつながるための活動例

・やりたい活動で仲間を作る「学級クラブ」★★★★☆

学級内にクラブをつくる取組です。好きな者どうしで仲間をつくるのではなく、「やりたい活動」が同じであれば仲間にな るので、友達関係を広げる効果があります。 この２年は、コロナ禍のため実施できていませんが、 低学年の方が盛り上がる印象があります。 1 年生では、「ミサンガクラブ」「虫クラブ」「アイドルクラブ」「きめつのやいばクラブ」などが結成され 、 孤立しがちな子の仲間つくりに役に立ちました。 お楽しみ会では「クラブ発表」のコーナーもつくりました。

ホワイトボードと名札を用意していつでも書き換えられるようにしていました。

〇教師と子どもがつながるための活動例

・教師との交換ノート ★★★☆☆

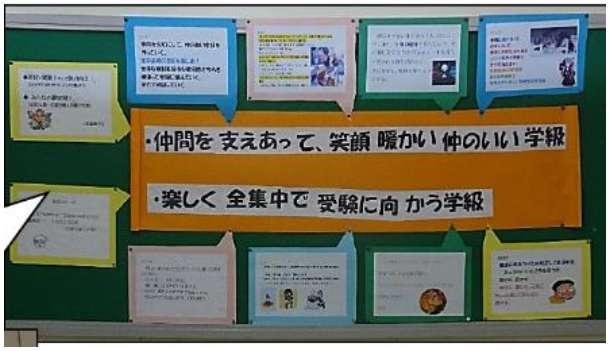
週に一度、「今週の自分の心を振り返る」というテーマで心のノートを書いてもらっています。行事の振り返りや、 学級 で悩んでいること、自分の趣味のこと、私への質問など、内容は様々ですが、子ども の悩みや 考えを把握することができ ます。また、 学級の様子とは違った姿が見えて くることがあり、 教師の子どもへの見方が変わります。 文の長さや文字の丁寧さ、内容によって、その子の心の安定度合いが 分かることもあります 。子どもを理解する上で役立つアイテム だと感じています 。 場合 によっては詳しく話を聞いて問題 解決に当たることもあります。また、「この子を褒めたいなあ。」と思うことがあったとき、このノートに書いて伝えます。本人の許可をとってお便りに載せることもあります。

☆掲載レポート③　第３分科会　石狩市立花川北中学校

松島彩子　教諭・髙橋雅代　教諭・中島さやか　教諭

「生徒の意欲向上を目指した学級掲示」

〇特別支援学級



・学級目標＆個人目標→いつでもどこでも誰でも見ることができるように、廊下に掲示しています。学級目標の周りに個人目標も貼り、定期的にふりかえりをしています。

・カレンダー→学校行事・入試日・誕生日を書いています。先の見通しをもって、今やらなければならないことを明確にできるようになるといいと思っています。

〇３年２組

・学力テストまでのカウントダウン→受験生として、テスト日から逆算しながら、学習の計画を立てています。役割分担を決め、毎日生徒がカレンダーをめくっています。

・中体連への意気込み→一人一人の決意表明と、学級の仲間に対しての応援メッセージを掲示しています。 行事に向かう団体は違っても、常に学級の一員である意識をもって、力を発揮したり、友達を応援したりする気持ちをもってほしいと思っています。

☆掲載レポート④　第４分科会（北）　江別市立江別第二小学校

山口真理子　教諭・皆川悠太　教諭・小笠原晴美　教諭

「コロナ禍でも実践できる！学級集団遊び ～アイスブレイク」

○【語彙力アップ・団結力】これなーに？

・カタカナ語のお題を、カタカナ語を使わずに説明し、みんなに当ててもらうゲーム。

☑すき間時間にできる(3分～)　☑ 3人～学級全員　☑必要な道具:紙・ペン

・審判を担任がやるのはもちろん、子どもがやっても盛り上がる。
・出題者と回答者を同チームにして、班対抗タイムトライアルで対決させるとさらに良い。
・カタカナ語を使ったら＋３秒　など学級ルールを作る
・慣れてきたら「単語だけで説明」「声を出さずに(ジェスチャー、口の形だけ)」など表現を制限していく。

○【想像力 質問力 会話力を鍛える・子ども同士の関わり】21QUESTIONS

・友達の描いた絵を２０個の質問の答えから推理する遊び。

① A：テーマに沿った絵を描く。

② B：何の絵を描いているか質問をする。 A：「 YES 」か「 NO 」で答える。

③ B：２０個の質問が終わったら答えを当てる。

☆掲載レポート⑤　第４分科会（南）　千歳市立高台小学校

玉田瑞穂　教諭・中村真理子　教諭・田中里紗　教諭・佐藤はるか　教諭

「コロナ禍でも実践できた楽しい活動」

○人間スゴロク

ねらい：個人と集団での相乗効果を目指す。

・サイコロを振って出た目の分すすみます。自分がコマとなり、とまったマスに書かれている「指示（ミッション）」に従いながら、ゴールを目指します！

「１つもどる」「３つすすむ」など基本的なミッションの他に児童と一緒にさまざまなアイデアを出し合い、マスを増やしていく。

・アイデア⇒国語＜「学校」読めますか？＞

算数＜３＋２の分だけ進む＞など、授業で習ったことを使う。

・＜メリット＞授業が進んでも遊び感覚で振り返りができる。

自分たちでつくることでみんなが何を書いたのか楽しみながら、進めることができる。

○人間まちがいさがし

ねらい：自他を見つめ合い、対人関係を円滑にし、集団参加の基盤を培う。

・二人でペアになり、距離を取って向かい合います。お互いのポーズや服装を時間内に覚えます。お互いが背中合わせになり、自分のポーズや服装のどこか一か所を変えます。 例えば、靴下を脱ぐ、袖をまくる、笑った顔から悲しい顔にするなど。 その後、先生の合図で 向かい合い、お互いの間違いを見つけます。先に間違いを見つけられた方が勝ちです。難易度を上げたい場合は、間違いの数を増やすといいです。

Ⅲ．部会研究の成果と課題

１．成果

○今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点より、活動が制限されたが、運営のもち方からレポートの内容等、現状を踏まえた取組を最大限することができた。

○当日は配信したレポート集を使用して、各校での交流のみとなってしまったが、データでのレポート集は紙媒体のものより検索しやすく、活用もしやすくなった。また、レポート交流に多く時間を費やし、熟読することにも繋がった。

○レポートの提出方法などを FAX や C4th、HP を利用し、わかりやすく丁寧に部会員に伝えることができた。その甲斐もあって、レポートの本数は、第１分科会１３、第２分科会２３、第３分科会１７、第４分科会４１で計９４本となった。昨年度よりレポート数が増え、多くの実践を学ぶ機会となった。

２．課題

○全体会や分科会でのレポート交流を、２年連続で一堂に会して実施できなかった。「もしも…」のために、オンライン上でも開催できるよう環境を整える必要がある。（「Zoom」や「Google Meet」、「Office Teams」と石狩管内の市町村で主として利用しているアプリケーションが違うので、注意する。）

○レポート交流をした際に発生する“疑問や質問”を解消するために、オンライン開催やアンケート項目を増やすなどの工夫が必要であった。

（文責　宮内　徹也）